

飼料作りと肥料

草量の増加と草質向上は施肥で――

三 浦 梧 樓

一 乳は土地から搾るもの

「健全な酪農とは土地から乳を搾ることである」という意味の言葉を最近よく耳にしますが、たしかに偏った酪農に対する一つの警告的表現であるといえましょう。

酪農とは土地の生産、すなわち耕作部門（飼料作り）と乳牛部門の両方から利益を挙げようとする経営形態であるにかかわらず、やもすれば飼料耕作を省みず、酪農即乳牛とあまりにも乳牛の部門にだけ強い要求と負担をかけ過ぎて、この結果は乳は搾つたが飼料高、乳牛の不健康と、結局は儲からない酪農におちいつている例があまりにも多いようです。

よくこの乳牛から○きぬ搾つたとか、○きぬ搾るということをききますが、この言葉自体がすでに乳牛に無理をかけて、まではかけようとするもので、種牛育成家はともかくとして一般酪農家では○きぬ当たりの牛乳を搾るという考え方を強めることが、健全な酪農推進のためには必要と思われます。したがって牛乳を増産するためにはもとと耕作部門に力を入れて自給飼料

を増産することです。

飼料の良否——乳牛の栄養——牛乳の生産量——乳牛の健康、は深い関連性をもつてていることは読者もよく承知のところです。

さて「乳は土地から搾るもの」すなわち健全な酪農はよい飼料の準備からといふことになりますが、そのよい飼料すなわち自給飼料増産の手段は種々ありますが、そのなかでも施肥は飼料増産最も推奨される方法の一つであります。飼料作りでは施肥によつて、植生は良好となり、草量は増加し、草質の向上することは他作物の比ではありません。

ところが「草にコヤシをやるのは、もつたいない」という考え方が最近はよほど薄らいで来たとしても、まだ他の換金作物に比べると飼料作りでの肥料の使い方は充分ではないようです。

二 飼料作りにはどのくらい肥料がいるか

牧草を作ると土地が肥えるということか

ら飼料作りでは施肥の必要がないと考えら

れ勝ちです

が、これは誤りで、飼料作りも実取り作物と同様か、さらにそれ以上

から吸つて

始める生産があるので

す。次に換金作物の代表と

しての馬鈴薯

と各種飼料作物の、四、〇〇〇きぬ（一、〇〇貫）の収穫物中に含まれている肥料分

を計算して表にしてみましょう。

すなわち前表によつてみると、オーチャード四、〇〇〇きぬ中の肥料成分は、馬

鈴薯四、〇〇〇きぬ（約六五俵）中にある肥料成分に比べて、窒素、磷酸、カリ、石灰分とも五七一〇割も多いことがわかります。

多肥作物といわれている馬鈴薯には相当肥料をやりますが、それに比べてもっと肥料を多く吸収している牧草に対してもどうで

しょう。土地に養肥分のある中は牧草もなんとか生産をあげてくれますが、これには限度がありますから、勢い草地は荒廃して

不良草がはびこり、収量も少くなり、その上品質の悪い栄養価の少ない草よりとれない

結果となります。

飼料作物は根瘤菌着生が良好であれば、〇〇%は根瘤菌の固定した空中窒素で補給さ

飼料作物四、〇〇〇きぬ中に含まれている肥料分（単位：きぬ）

作物名	肥料分	窒素分		磷酸分		カリ分		石炭灰分	
		成分量	換算	成分量	換算	成分量	換算	成分量	換算
オーチャード	赤クロバード	云々	九〇	云々	八〇	云々	七〇	云々	六〇
ライ麦、ベック	云々	一三	一三	云々	一三	云々	一三	云々	一三
チ混ばん	云々	一四	一四	云々	一四	云々	一四	云々	一四
家畜ビート	云々	一四	一四	云々	一四	云々	一四	云々	一四
同右	頭葉	一五	一五	云々	一五	云々	一五	云々	一五
ルタバガ	頭葉	一六	一六	云々	一六	云々	一六	云々	一六
馬鈴薯	頭葉	一六	一六	云々	一六	云々	一六	云々	一六
飼料用かぶ	云々	一七	一七	云々	一七	云々	一七	云々	一七
馬鈴薯	云々	一八	一八	云々	一八	云々	一八	云々	一八
馬鈴薯	云々	一九	一九	云々	一九	云々	一九	云々	一九
馬鈴薯	云々	二〇	二〇	云々	二〇	云々	二〇	云々	二〇
馬鈴薯	云々	二一	二一	云々	二一	云々	二一	云々	二一
馬鈴薯	云々	二二	二二	云々	二二	云々	二二	云々	二二
馬鈴薯	云々	二三	二三	云々	二三	云々	二三	云々	二三
馬鈴薯	云々	二四	二四	云々	二四	云々	二四	云々	二四
馬鈴薯	云々	二五	二五	云々	二五	云々	二五	云々	二五
馬鈴薯	云々	二六	二六	云々	二六	云々	二六	云々	二六
馬鈴薯	云々	二七	二七	云々	二七	云々	二七	云々	二七
馬鈴薯	云々	二八	二八	云々	二八	云々	二八	云々	二八
馬鈴薯	云々	二九	二九	云々	二九	云々	二九	云々	二九
馬鈴薯	云々	三〇	三〇	云々	三〇	云々	三〇	云々	三〇
馬鈴薯	云々	三一	三一	云々	三一	云々	三一	云々	三一
馬鈴薯	云々	三二	三二	云々	三二	云々	三二	云々	三二
馬鈴薯	云々	三三	三三	云々	三三	云々	三三	云々	三三
馬鈴薯	云々	三四	三四	云々	三四	云々	三四	云々	三四
馬鈴薯	云々	三五	三五	云々	三五	云々	三五	云々	三五
馬鈴薯	云々	三六	三六	云々	三六	云々	三六	云々	三六
馬鈴薯	云々	三七	三七	云々	三七	云々	三七	云々	三七
馬鈴薯	云々	三八	三八	云々	三八	云々	三八	云々	三八

れますが、とにかく飼料作物は単位面積当たりの収量が多いだけに、多肥を要する作物ということができます。

三 施肥によつてどんな効果がある

期待できるか

飼料作物への施肥の効果は、一口にいえば収量を増加するとともに良質のものを得ることができます。これが可能となるのです。飼料は量だけでは乳が出ないので栄養価すなわち質が問題になります。穀穀を農業の主体として来たわが国では、量産が重視され習慣づけられて来たため、飼料作りにもその傾向が強く、ガサの飼料作りに偏り勝ちですが、これはぜひとも改めたいことです。

穀作への施肥は主として增收効果だけよりも期待できませんが、飼料作りの施肥は増収と栄養価の向上が期待できます。今これら効果を証明できる二つの試験成績を示してみましょう。

草量を作るとき地が肥えるということか

ら肥料作りでは施肥の必要がないと考えら

野草地への施肥効果

(三井計夫氏)

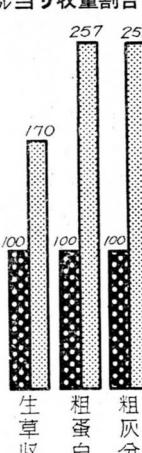
区分	年次	10% 当り収量割合										
		一年	二年	三年	四年	五年	六年	七年	平均	炭カル一二 ○キロ区	炭カル一二 ○キロ区	
無肥料区	一〇〇	一〇〇%	一一〇	一一〇%	一二〇	一二〇%	一三〇	一三〇%	一四〇	一四〇%	一五〇	一五〇%
過炭カル一二 ○キロ区	一〇〇	一一〇	一二〇	一二〇%	一三〇	一三〇%	一四〇	一四〇%	一五〇	一五〇%	一六〇	一六〇%
炭カル一二 ○キロ区	一〇〇	一二〇	一三〇	一三〇%	一四〇	一四〇%	一五〇	一五〇%	一六〇	一六〇%	一七〇	一七〇%
炭カル一二 ○キロ区	一〇〇	一三〇	一四〇	一四〇%	一五〇	一五〇%	一六〇	一六〇%	一七〇	一七〇%	一八〇	一八〇%
無肥料区	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇%	一〇〇	一〇〇%	一〇〇	一〇〇%	一〇〇	一〇〇%	一〇〇	一〇〇%

(備考)

一 每年の収量比率の比較

二 ススキ、チガヤ主体年一回刈六〇〇～八〇〇

きぬの採草地
PH四・五



造成草地での施肥効果(北海道農試)
考 一 施肥区(10アルカリ)
二 無施肥区
備 二オーチャード主体の古い採草地

すなわち前記の成績で施肥効果は著しい
增收はもちろんのこと、非常に栄養価の高
い草が得られることがわかり、飼料作りの
施肥への意欲を高めていただけるものと思
います。

きます。

家畜尿

自給飼料

(1) 放牧地の排糞尿

牛馬一頭一日当りの糞で二六キロ、尿で
八キロくらいですから、今かりに乳牛一頭
を二〇キロの放牧地に四ヶ月収容するとしま

飼料作りで主として使いた

い肥料

家畜尿は速効性の肥料成分に富みその肥
効も一ヶ月以内といわれており、その含有
成分とともに一般に追肥として利用されま
す。酪農家の間では「牛尿一kgは乳一kg」
といわれおりますが、牛尿一kgで牧草三

kgを生産し、この牧草で牛乳一kgを生産
します。

すと排糞尿だけで一〇kg当たり硫
安三八キロ、過石四〇キロ、硫
加三六キロに相当する肥料分が
投下されるわけですから、これ
を有効に利用するようにな
ります。排糞はこれをカキ散らすか
またはスコップで反転埋没しま
すと、不食過繁草も生じません
し、ダニの棲息場所もなくなり
害虫の発生も防げます。

尿には磷酸分と石灰分が少ないので、追
肥の際はとくに過磷酸石灰等の併用が必
要です。一回の撒用量は一〇kg当たり一、二〇
〇～二、〇〇〇キロが普通で薄めて施用しま
す。

堆肥

自給肥料のうち地力の根源と いつてよいものは堆肥であります

堆肥の肥料効果は窒素
分では硫安の約5%の肥効があ
り、磷酸分では過石の約3%、カリ
分では硫加とほぼ同じ程度の肥
効をもつており、その持続期間
も二年目は初年目の半分、三年

目はまたその半分、四年目は僅
少と化学肥料に比して長く永年草地等には
必要欠くことのできないものです。

(1) 石灰

堆肥は肥料効果の他に土壤改良効果も
大きく、火山灰地はもちろん、泥炭地、重
粘地いずれに施しても大きな効果を期待で
きます。

○石灰は作物の生育上必要な養分であるば
かりでなく、土壤改良上も大切なもので、
わが国での飼料作りでは低位泥炭地を除い
ては各種土壤に施用する必要があります。
よく土壤が酸性であるから石灰を施用しな
ければならないと考える方が多いのです
が、もちろんそれもありますが、良質の草
を得るために酸性のいかんを問わず石
灰を施すことの原則として考えていただき
たい。日本の土壤は外国の土壤に比べて次
のように石灰の含量が少いのです。外国で
は牧草とくに豆科牧草栽培には必ず石灰を

(2) 窒素肥料

窒素質肥料として用いられるものには硫
安、尿素、石灰窒素、塩安等がありますが、
牧草地等ではなるべく酸性肥料を使わない
ようにすべきで、酸性(硫安等)肥料の連
用は植生を好酸性植物(ヒメスイバ、ワラ
ビ、スゲ等)のような不良草に変化せしめ
ます。

各国土壤の石灰平均含量

米	日本	英	フランス	ドイツ	国
〇・六二九%	〇・六三三%	三・八三三%	四・〇六五%	一・三五%	一・三〇五%

その点石灰窒素は良好で早春萌芽前に散布しますと、硫安よりも流亡が少く効果的です。追肥には尿素が適当です。このように窒素肥料でも含有窒素の形態や、酸性、塩基性によって種々と使い分けなければなりません。

飼料作りにおける窒素肥料使用の注意をあげますと、

- (a) 牧草には尿素態窒素（尿素）が取量も多く葉の割合が多い。
- (b) 禾本科牧草は窒素肥料によつて増収しますが、豆科草には多量の窒素は不可。
- (c) クロバーレンには初期生育に必要な少量の窒素でよい。豆科草に含む窒素の半は根瘤菌によつて固定補給されます。

(d) 尿素肥料は葉面からも吸収され蛋白質に合成されます。葉面撒布の時期は刈取前一〇～二〇日前がよい。

(e) 放牧地や、採草地にも刈取放牧の一〇～一四日前に窒素肥料を施用しますと蛋白白含量が高くなります。

(f) 石灰窒素に含まれているシャナミツドは殺草効果もあります。一〇kg当たり六kg程度を降雨時に施しますと、とくにタデ類の駆除に効果があります。

(3) 磷酸肥料

磷酸肥料はわが国の土壤には一般に欠乏しておりますから、ぜひ施さねばなりません。とくに豆科作物の生育には欠くことができません。クロバーレンの磷酸肥効試験成績を示しますといかに大切かわかると思います。

飼料作りに利用される磷酸肥料として、

風乾物反当り収量割合 (%) (平石氏)

	無施用区	磷酸少量区	磷酸中量区	磷酸大量区
赤クロバーレン	100	三六	三三	三〇
ロバーレン	100	三九	三一	二九
アルサイク	100	三九	三一	二八
クロバーレン	100	三九	三一	二七

(備考)

共通肥料として硫安一〇kg、硫加一〇kg、消石灰を用いた。

過磷酸石灰は酸性肥料ですが、あまり土壤を悪化せず、水溶性ですから主として追肥に、また熔性磷酸は石灰、マンガン等をも含み弱いアルカリ性ですから草地には好適な肥料ですが、水に融け難いので、地表撒布では草類の根の分布位置に滲透することが困難ですから主として基肥に用います。

磷酸肥料の施用効果と注意をあげますと布では草類の根の分布位置に滲透することが困難です。しかし主として基肥に用います。磷酸肥料はクロバーレン等の豆科草の植生を増加します。

(a) 豆科草の植生を増加、維持する。

(b) 牧草類の根の伸長を旺盛にし、病害の発生を防ぐことができます。

(c) 加里分は作物の糖分、蛋白質、脂肪等の合成及び体内移動になくてはならない要素です。

(d) 加里分は欠乏した作物は、葉部の葉緑素含量が多くても、炭素同化作用はできません。

(e) 磷酸分は牧草類の初期生長に必要で、里等の併用がよく混播栽培には効果的です。

(f) 磷酸分は牧草類の初期生長に必要で、よく根の生育を旺盛にし、吸肥力を増す。

す。したがつて播種時か早春に施すのがよい。

(4) 加里肥料

加里分は同化作用と密接な関係を有し、炭化生成に欠くことのできない成分で、草の蛋白質の形成に關係があり、病害虫の抵抗性を増したり、窒素と磷酸の調節役を果す。昔より「茎肥え」という言葉がありますが、別段茎ばかりでなく、茎葉を發達せしめる効果をもつており、とくに豆科作物にその効果が顕著です。

飼料作りに主として用いる加里肥料としては土壤を荒すことの少ない塩化加里がよく、ただ吸湿性が強く溶けやすいので、配合後直ちに撒布すること。硫酸加里もよく利用されますが、酸性肥料でこれの連用は豆科草の植生を害すことがあります。

加里肥料の効果をあげますと、

(a) 豆科草の植生を増加、維持する。

(b) 牧草類の根の伸長を旺盛にし、病害の抵抗性を強めます。根室地方に多いチモシーの斑葉病は加里肥料の施用によつて発生を防ぐことができた例があります。

今まで述べたことは飼料作りに当つての施肥の予備知識ともいふべきもので、實際飼料栽培者が知りたいのはどんな土地に何を作つた場合、どのくらいの肥料をやるかとがいいかであります。そこで施肥設計をする場合に考えるべきことをまとめてみま

五 飼料作りの施肥設計

(e) 天候不良で日照不足の場合は加里を与えてあると、とくに良品質の草を得ることができます。

(f) 牧草地に加里が充分施されていると根の切斷が少く、また糖分含量が多くなる関係上、冬枯防止と早春の萌芽が早く生育が旺んになります。

(5) 微量要素

飼料作りでも一般作物と同様窒素、磷酸、加里、石灰のいわゆる四要素の他に少量ではありますが、必要な要素が幾つかあります。これを微量元素といつて、沃素、マンガン、マグネシウム、コバルト、銅、鉄、硼素等があげられます。

今まで述べたことは飼料作りに当つての施肥の予備知識ともいふべきもので、實際飼料栽培者が知りたいのはどんな土地に何を作つた場合、どのくらいの肥料をやるべきかであります。そこで施肥設計をする場合に考えるべきことをまとめてみます。

研究調査

(1) 肥料の基礎知識

(2) 土壤の性質

(3) 作物の肥料に対する特需

(4) 作物の肥料吸収状態

(5) 気象からみた肥料の特性

(6) その他

を参考として

決定

肥料の種類と量配合の方法

施肥の方法

となり、いたずらに慣習にのみ追従せず、理論と貴い経験によつて最も効果的な肥料設計を樹てたいものです。

(ア) 飼料作物の特性からみた施肥の注意

作物の種類によつて要求する肥料成分の違ることは承知の通りですが、基本的には豆科のものは磷酸、カリ、石灰を特需し、禾本科のものは、窒素の要求が大であるとともに磷酸分もかなり要求します。

今次に主要作物(牧草)について特需状況を表示しますと、左表の通りです。

(イ) 土壤からみた施肥上の注意

飼料作りの土壤によつても施肥設計がもちろん変つて来ますので、各種土壤別のおよその注意をあげますと、

(1) 火山灰性土壤

磷酸質および窒素質肥料を主とし、とくに磷酸質肥料を多量に施し、これに適宜加

作物名	◎最も必要、×不要	
	赤クロバ	ラディノクロバ
ルコニモンベツ	○	○
オチヤード	○	○
ケンタッキークリュグラス	○	○
ブローム・グラス	○	○
ケンタッキー三一封エスク	○	○
ラドトツ	○	○
ブス	○	○
石炭施用は不可	○	○

窒素
磷酸
カリ
石灰

摘 要

牧草の根は一~二度の低温でも活動を始め、また年生育期間の1/4の短い期間でその年の全生産量の約1/3の生産をするので、早春から初夏までの間に大いに肥料を必要としますから、なるべく早春に施肥することが必要です。また飼料作物の生育過程と肥料の必要度をみると、

- ・発芽直後は種子の養分を利用
- ・発芽後~五週間 窒素磷酸は多量ではないが必要

生育初期に少量の窒素他は周年必要

窒素は初期少量、腐植が必要

石灰の多量施用は不可

腐植が必要

石灰の多量施用は不可

早春の追肥が効果大

里質肥料を施すことを目標とすべきで、また腐植が少ないので堆肥の効果は大きい。

肥料の種類としては窒素では硫安、硝安、智利硝石、尿素、魚粕。磷酸では過石、熔磷、米糠。カリでは硫加、塩加、草木灰などがよい。

(2) 泥炭土

泥炭土はカリの欠乏が目立ち、とくに高位泥炭土はこれが著しく、磷酸も著しく欠乏しており、窒素は相当含まれています。

肥料の種類としては窒素では硝安、智利硝石、尿素、人糞尿。磷酸ではトマスマス肥料、骨粉、熔磷。カリでは草木灰が最もよく効きます。

(3) 重粘土

重粘土地は窒素に最も欠乏し、磷酸、カリも欠乏していますから、これらを適宜補うとともに、他方これら肥料の効果をあらしめるためには排水、酸度矯正、深耕、心土耕、有機質補給などの土地改良が必要で

す。

普通鉱質土壤

特殊土壤地よりは肥沃ですが、窒素は各土壌とも欠乏し、磷酸は洪積土、三紀層土に欠乏し、カリは窒素、磷酸程欠乏していませんが洪積土、安山岩土に欠乏しています

から、それぞれに応じて施肥しなければなりません。

また洪積土、三紀層土は酸性土壌の場合が多いので、飼料作りでは石灰の施用と、酸性肥料を避ける等の心がけも大切です。

(イ) 草の肥料成分吸収状態からみた施肥上の注意

牧草の根は一~二度の低温でも活動を始め、また年生育期間の1/4の短い期間でその年の全生産量の約1/3の生産をするので、早春から初夏までの間に大いに肥料を必要としますから、なるべく早春に施肥することが必要です。また飼料作物の生育過程と肥料の必要度をみると、

六 施肥料のきめ方と施肥例

施肥量の算出方法は種々ありますが、その一つに還元法といいうのがあります。これは次の公式によつて理論上の施肥量を算出するわけです。

$$\text{施肥率} = \frac{(\text{飼料生機物中}) - \text{天然無氮量}}{\text{肥料吸収率}}$$

この方法によりますと、その土地の生産力に応じた施肥量を測定することができます。

しかし前述の飼料作りには、どの程度の肥料が必要かの項で表示したように、かなりの施肥料となり、この全量を化学肥料だけで施すことは危険でもあり、また経済的施用量ということも考えなければなりませんから、この計算だけで決定せず、この計算による理論的施肥量と、従来の慣行施肥例とを勘案して、妥当と思われる施肥量を自分の圃場に合うように決めて、あとは作

が大切です。

(イ) 気候からみた施肥上の注意

寒冷地ではカリ質肥料以外は速効性肥料が相当必要とされ、これに速効性の有機質肥料を配し、また濃霧地のような日照不足の地帯では同化作用促進のためにもカリ質肥料が必要となり、一方暖地ではいかに無機質肥料が豊富でも夏枯時には効果が期待され難く、豊富な有機質によって夏枯れが防止されて始めて無機肥料の効果も期待できるなど、よくその立地の気候条件に合致した施肥を行なうことが必要です。

物の生育状況をみながら逐次修正し、決定版を見出しがよいと思われます。そこで各地での施肥例の二、三を紹介します。

北海道普通地の例

(a) クロバードの多い牧草地

堆肥肥 一、二〇〇~一、六〇〇kg/ha

硫 安 一二一~一六〇kg/ha

過 石 二〇~二八〇kg/ha

硫 加 四~八〇kg/ha

堆肥肥 一、六〇〇~二、四〇〇kg/ha

硫 安 二〇~二八〇kg/ha

過 石 一二一~一六〇kg/ha

硫 加 四~八〇kg/ha

過石八~一二〇kgを併用して効果あり。

青森県の例（火山灰土）

基肥 硫 焼 塩 加 各二回

追肥 硫 安 二〇〇kg/ha

過 石 四八〇kg/ha

硫 加 八〇kg/ha

過石八~一二〇kgを併用して効果あり。

熊本県阿蘇の例

基肥 石灰窒素 二四〇kg/ha

硫 焼 塩 加 三二〇kg/ha

過 石 六〇kg/ha

硫 加 八〇kg/ha

過肥 硫 安 一六〇kg/ha

各四回

各四回

生育となるかを知つて観察を重ね、施肥量の修正を行うことは合理的な施肥のために必要なことです。

飼料作物が肥料の過不足の場合、どんな修正を行つことは合理的な施肥のために必要なことです。

○窒素の過不足判定

(a) 過剰の場合

葉幅広く濃緑、質軟く耐病性弱し。

茎が徒長し、倒伏しやすく開花遲れる。

(b) 不足の場合

無効分蘖多く、花芽の着生不良。

葉が小さく、葉数少なく、葉色淡い。

茎全体の発育貧弱。

穂や花が貧弱。

○磷酸の過不足判定

(a) 過剰の場合

葉厚くあるいは葉先暗紫色。

茎の生育不良、濃緑色を呈し、根元暗紫色。分蘖少し。

草丈短く、発育不良。

開花成熟早まる。

(b) 不足の場合

葉小となり、葉先暗紫色。

茎の生育不良、濃緑色を呈し、根元暗紫色。分蘖少し。

草丈短く、発育不良。

開花期遅れる。

○加里の過不足判定

(a) 過剰の場合

葉が大きく草丈長し。

(b) 不足の場合

葉は軟弱、生育初期は緑色なるも、次第に葉辺葉脈下部に淡黄色の葉緑素欠乏の斑点ができ、はなはだしい時は黄

七 肥料過不足の診断

変枯死病害の抵抗弱まる。

茎葉軟弱倒れやすく、はなはだしい時は萎黄病状を呈す。

(札幌市厚別町字上野幌・雪印種苗株式会社上野幌育種場)

澱粉糖分の蓄積少く、冬枯多し。

貿易自由化と酪農

昭和三十三年にわが国が輸入した農林関係物資は、三、九五〇億円にのぼるが、このうち制限を受けないで自由に輸入できたものは二六%程度で残り七四%程度がいわゆる外貨割当制によつて制限された輸入である。乳製品の輸入制限もこのなかに含まれている。

日本政府の招請により昨年十月二十六日~十一月二十日、東京で開かれた第十四回 ガット総会、一月十二日の閣議決議で、貿易自由化の線がきまり、食糧も大豆を始め、輸入品が今後ぞくぞく入れてくる可能性が強くなつてきた。

従来は高い関税障壁と輸入制限によつて守られてきた日本の産業にも、ようやく貿易自由化の風潮が押し寄せてきたわけで、ことに、われわれとして考えなければならぬのは、乳製品の輸出入の問題である。

貿易面において国内産物を保護する方

法は、いうまでもなく輸入制限と関税の二つである。輸入制限は海外価格の高低にかかわりなく、輸入数量を制限し、国内産品の使用を余儀なくさせるという点で関税よりも強い手段である。わが国のが農産物の大半は、從来強力な輸入制限によって海外農産物の混入から保護されてきた。

しかし貿易自由化が進み、乳製品の輸入は必至と思われる。そのため政府が適切な対策をたてることはもちろんである

が、酪農にたずさわるものはすべて、自らの問題として、真剣に取組まなければならぬ。